

評価項目	重点目標	具体的対策（手段）及び数値目標	学校の自己評価コメント	自己評定
【 確かな学力の向上 】	① 生徒の学習意欲を高め、教科指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の学習目標・めあてを明確にし、ICTを含む教材・教具の工夫を図る。</li> <li>・諸検査を活用し、生徒の学力の課題を見つけ出し、授業の実施および分析を行うことで、その克服に努める。</li> <li>・生徒の学習意欲等のアンケート調査を実施し、授業に対する満足度の割合が80%以上をめざす。 4：80%以上 3：60%以上 2：40%以上 1：40%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン、大型テレビ、実物投影機はかなりの学級、教科で活用が図られている。お互いの授業を参観したり、研究授業を実施したりして、教科指導の充実に努めた。</li> <li>・NRT(標準学力テスト)とみやざき小中学校学習状況調査を、教科ごとと学年ごとに分析し、学年の課題を洗い出し、学年ごとに手立てを検討した。</li> <li>・生徒の学習意欲等のアンケートを実施し、授業に対する満足度の割合が73%であった。</li> </ul>	3
	② 「学習の心得五ヶ条」の指導徹底を図り、学業指導の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習態度確立週間の活用を通して、姿勢を重視し、学業についての教科ごとの指導充実を図る。</li> <li>・授業中の学習態度A評価の割合が90%以上をめざす。 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の「学習態度確立週間」において、授業担当教員における毎時間のチェック(チャイム着、忘れ物、態度等)や係による呼びかけを行っている。また、各月ごとに重点項目を変えて取り組んでいる。</li> <li>・ほとんど学級で学習態度がAと評価された(大変良い)評価された割合が90%を越えているが、学習の心得五ヶ条全てについて定着しているとは言えない。</li> </ul>	3
	③ キャリア教育の充実に努め、生徒一人一人の個性に応じた進路指導を推進する。教師の指導内容を研究や経営方針と絡めて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査を計画的に実施するとともに、情報提供(進路に関する掲示物の活用、進路便りの発行)を積極的に行い、生徒の進路に対する意識を高める。</li> <li>・年間指導計画に基づいて、道徳、学活、総合的な学習の時間を関連づけた各学年の進路指導を意図的・計画的に行う。</li> <li>・「夢や進路について考えている」生徒の割合が85%以上をめざす。 4：85%以上 3：75%以上 2：65%以上 1：65%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査や進路に関する情報提供は定期的に行っている。</li> <li>・学級活動と総合的な学習の時間を結びつけて、1学年は職業についての学習、2学年は職場体験学習、3学年は進学説明会(2回)を実施することができた。</li> <li>・アンケートの結果、「進路について考えるようになった」生徒の割合は86%であるが、1、2年生の進路意識がまだまだ低いので、これからも継続して、高めるように工夫していく必要がある。</li> </ul>	3
	④ 家庭学習2時間以上を目標とした指導および家庭への啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の仕方を、各教科および学級で具体的に指導を行う。</li> <li>・課題を確実に行うために、サルビアノートへの記入徹底を行う。</li> <li>・学級通信や学校便り等の発行を通して、家庭への啓発を行う。</li> <li>・宅習2時間を達成した割合が80%以上をめざす。 4：80%以上 3：60%以上 2：40%以上 1：40%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サルビアノートは毎日学級担任がチェックし、その活用についてはその都度個人的に指導しているが、全ての生徒が十分な家庭学習をできる状況にはなっていない。</li> <li>・ほとんどの学級で学級通信を、全学年で学年通信を発行しており、学習に関する内容について触れることができていた。</li> <li>・宅習時間2時間以上を達成した割合は、3年生が80%以上であるが、1、2年生は50%程度なので、取組に差が見られる。</li> </ul>	3
【 生徒指導・豊かな心の育成 】	① 心豊かな生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ根絶週間や教育相談を通して、他者を気遣える生徒の育成をめざす。</li> <li>・生徒の自己評価で「相手を傷つける言葉を言わなかった」と答える生徒の割合が80%以上をめざす。 4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ根絶週間や教育相談週間は、予定通り実施できた。</li> <li>・いじめ相談員と生活委員会を中心に集会の実施や点検活動により意識は高まった。</li> <li>・少数ではあるが、いじめの実態がある。(小学生期の問題を引きずっている傾向が多く見られた。)</li> <li>・思いやりの心が身についていると思う生徒は80%以上いる。</li> <li>・いじめの課題に対して、全校で考える場面、クラスで対策を考える場面、教師から人権学習で指導を受ける場面等それぞれがリンクした形で取り組むことができた。</li> </ul>	4
	② 情報機器を適切に活用する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルに関する集会や授業を通して、情報や機器の適切な活用について啓発を行う。</li> <li>・「情報や機器を適切に活用(個人情報保護、誹謗中傷の有無など)できている」と答える生徒の割合が90%以上をめざす。 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル集会として、インターネットの使用について講話を行った。</li> <li>・インターネットを正しく利用している生徒は95%以上である。</li> <li>・地区懇談会において、小学校の保護者・中学校の保護者、地域の方が一堂に会している場で、子どものネット被害を防ぐために具体的なアプリを紹介しながら、保護に協力をお願いすることができた。</li> </ul>	4
	③ 三清清掃(時、場、心の清掃)に則って、一生懸命清掃する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃態度徹底週間の点検活動を確実にを行い、三清清掃の徹底を図る。</li> <li>・点検結果から、「無言で、時間いっぱい清掃している」生徒の割合が90%以上をめざす。 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無言で時間いっぱい清掃ができている生徒は94%である。</li> <li>・清掃態度徹底週間や点検活動を実施できた。</li> </ul>	4

【健康・体力づくり】	①	健康・規則正しい生活に対する意識や実践力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康振り返りカードを使い、自己分析させ、課題意識をもたせる。</li> <li>生徒主体の活動による健康教育を進める。</li> <li>12時までに寝ることができた生徒の割合が80%以上をめざす。 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康振り返りカードを記入することで、自分の健康に関する問題を把握し、意識して生活する生徒が多くなった。</li> <li>生徒の活動は出来ているが、主体性にやや欠ける。</li> <li>12時までの就寝は、8割の生徒が出来ているが、一部遅い生徒は固定化している。</li> </ul>	4
	②	給食マナー5カ条の徹底を図り、食に関する指導・給食指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日の食事（朝食・昼食・夕食）の栄養バランス、エネルギー量等を自分の生活スタイルに合わせて考えさせる。</li> <li>食事のマナーや食に対する感謝の心を育てる指導を充実させる。</li> <li>給食指導週間の点検項目のA評価が80%以上をめざす。 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食準備片づけの時間に関する項目が8割に満たず、今一步であった。生徒主体の活動を促し、今後も継続して指導していきたい。</li> <li>弁当の日は実施できた。放送による給食感謝集会も実施できた。</li> <li>通常の残食量は多くても5~10kgであるが、1月はインフルエンザの流行により残食量が52.2kgと多かった。</li> </ul>	3
	③	安全・防災教育を充実させ、安全意識の高揚、危機回避能力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検を行い、危険箇所の把握、改善を行う。</li> <li>避難訓練や防災教育を通して、防災に関する意識を高め、日常生活の過ごし方や行動につなげさせる。</li> <li>避難訓練に対する評価項目のA評価が90%以上をめざす。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検は、毎月きちんと行われ、生徒と職員のみでチェックした後、出来る部分は職員で、出来ない部分は業者や教育委員会にお願いして、確実に改善が図られている。年度当初は30か所ほどあった修繕箇所が最後は6か所ほどになった。</li> <li>12月の避難訓練(火災)は、生徒の防災意識を高めるため、生徒には事前の予告なしに抜き打ちで実施した。避難訓練に対する評価Aの生徒が96%であり、おおむね防災意識を高めることができた。</li> </ul>	4
【地域教育の推進・開かれた学校づくり】	①	各種通信やHPの充実等情報発信を積極的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種通信の計画的な発行に努める。</li> <li>HPを毎月更新する率80%をめざす。 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:50%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校便り、学年通信、学級通信は定期的に適宜発行することができた。学校の様子など家庭にお知らせすることができた。</li> <li>HPは9月より定期的に更新できている。途中滞った時もあったが、概ね定期的に更新できた。</li> </ul>	3
	②	地域資源(人材、素材等)の積極的な活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間、道徳の時間等で、地域人材、郷土資料を使った授業を、各学年、年3回以上の実施をめざす。 実施回数 4:3回以上 3:2回 2:1回 1:0回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳では啓次郎の日、総合的な学習の時間においては宮崎の自然、宮崎の歴史、礼法指導、職業講話、職場体験学習等に、学校行事では小中合同避難訓練、交通教室等で地域人材と郷土資料の活用を図ることができた。</li> </ul>	4
	③	地域との連携を図ったボランティア活動を年間計画的に沿って行い、内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会の活動を積極的に言い、ボランティア活動の参加を推進する。</li> <li>年間2種類以上のボランティアに参加する生徒が90%以上をめざす。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会は、自主的活動として学級ごとの朝の清掃活動を計画するなど、全校生徒を巻き込んだ活動を企画・運営することができた。</li> <li>後期アンケートで、2種類以上のボランティアに参加した生徒の割合は72%であったが、1回以上のボランティア活動に参加している生徒は97%であり、3回以上も約半分いる。積極的にボランティア活動に参加しようという雰囲気は高まってきている。</li> <li>青少年育成協議会や地域づくり協議会の主催する行事に、ボランティアとして参加する生徒の数も増えている。</li> <li>地域ボランティア「お助け隊」には132名の生徒が参加した。</li> </ul>	2
【特別支援教育の充実】	①	生徒一人一人のニーズに応じた教育支援システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の支援計画、指導計画の整備・活用に努める。</li> <li>個別の支援計画、指導計画が必要な生徒の把握と対応及び進捗について、各学年で定期的に検討を行う。(学期1回以上) 4:年間3回以上 3:年間2回 2:年間1回 1:年間0回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の支援計画と指導計画は整備できた。</li> <li>個別の支援計画に合理的配慮の視点を年度途中に加え、より細かい支援ができるよう配慮した。指導計画とともに来年度に向けての引継ぎを確実に予定で行う。</li> <li>各学年(全体)での生徒の把握と対応については、その都度共通理解しながら進めてきた。</li> </ul>	3
	②	校内支援委員会の活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内支援教育推進委員会の定期的な開催(月1回)を行う。 4:月2回 3:月1回 2:平均月1回未満 1:年間0回</li> <li>校内支援教育推進委員会での検討内容をもとに、全職員での共通理解を確実に(朝の生徒指導連絡会の活用 週1回開催) 4:毎週 3:月3回 2:月2回 1:月1回以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内特別支援教育推進委員会は、月2回以上実施できている(生徒指導対策委員会の活用)。</li> <li>校内特別支援教育推進委員会を受けて、月2回以上は、全職員への報告と共通理解を確実に(生徒指導連絡会の活用)。</li> </ul>	3
	③	特別支援教育に関する専門性の向上につながる研修の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期1回以上は、特別支援教育に関する研修を実施する。 4:年間3回以上 3:年間2回 2:年間1回 1:年間0回</li> <li>必要に応じて来校を求めると、関係機関との連携に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育の研修は年3回実施できた。主な内容は、生徒理解、生徒の指導・支援の在り方に関する応用行動分析、ユニバーサルデザイン・アクセシブルデザインを導入した授業の実践について等である。関係機関として、宮崎県中央発達障害者支援センター、みやざき中央支援学校、さくら聴覚支援学校、宮崎東病院、広瀬小学校、県立佐土原高校等との連携に努めた。</li> </ul>	4